

第 1 章

サラリーマンが
動けないのは、
当たり前だ！

登場人物



私(鷹幸)：人とはちよつと違ふと思ひ込んでいるサラリーマン



雅子(鷹幸の妻)：結婚前は優しかったが、子供が生まれてからは鬼嫁おによめ



春子(鷹幸の長女)：雅子と一緒に鷹幸を軽蔑している



大神(師匠)：自動的にお金を生み出している自由人。鷹幸の高校の同級生



秋本（会社の上司）：鷹幸に衝撃を与えた会社の上司



厚子（会社の後輩）：大〇優子さん似の女子社員



安倍：鷹幸の大学時代の先輩。自称、パーリーゲイツ

プライバシーの関係で、私以外の名前は少し変えています。ちなみに、妻の本名は雅代です。

サラリーマン人生は修行僧だ！ 話と違おうぞ！

毎月1日は、銀行に行ってお金を引き出すのが日課でした。

親からの仕送り10万円と5万円の奨学金が入ってきていた大学時代、私は大人おとなしい女子が多いと、風の噂で聞いて入会したバドミントンサークルの仲間と毎日のように遊んだり、飲んだり楽しんでいました。

何も考えることもなく、お金は銀行口座に勝手に入ってきて、自由に使って暮らしていたのです。

少し足りなければ、クレジットカードのキャッシングを利用して、もう少し足りなければ、学生ローンを利用して、返せそうになれば実家の親にシレっとクレジットカードの督促状とくせくじょうを送りつけて、返してもらったりしていました。

どうしても言うときだけ、アルバイトをしました。

常勤のアルバイトだと、自分の時間が制限されてしまうので、日雇いをメインにしました。まあ、そもそも人に使われたくない性格なので、できる限り、アルバイトはしないように生活していました。

社会人になれば、今の生活よりもっと自由に楽しい人生が待っていると本気で思っていた学生時代でした。本当に、どこにでもいる普通の学生時代を私は過ごしていました。

大学4年になって、就職活動が始まりました。私は割と中堅規模の大学なので、大学のOBの先輩と会う機会が何度かあったんです。

何人ものOBと会ったのですが、どのOBもパツとせず、私の心を動かすことはありませんでした。

そんなとき、バドミントンサークルに一時在籍していた、先輩の安倍さんと話す機会がありました。

安倍さんは見た目が大学時代と変わり、ちょっとチャラそうな雰囲気を出しています。確か、学生時代はピアスの穴はなかったはずですが、ピアスの穴が空いていたり、手

にはパワーストーンショップで買ったと思われる数珠じゆずが見え隠れしました。

「安倍先輩は、仕事が楽しいですか？」

と私が質問をすると、安倍さんは待っていましたとばかりに仕事のやりがいなどを話し始めました。

「仕事は充実していて毎日が楽しいよ！ お客様から感謝されたときなんて、なおさらだよね……」（以下いつもパターンのため略）

あく、いつものパターンが来たな。長いだけで、身のない話だとかっかりです。おそらく、リクルーター用のお決まりの必殺トークがあるのでしょう。

しかし、安倍さんが違ったのは、このお決まりトークの後でした。

「まあ仕事も楽しいんだけど、仕事終わりのアフター5が超絶楽しいんだわ！ これが！」

と目を血走らせながら、話し始めました。

「毎日が、社内の女の子が参加する飲み会やコンパでパーリーナイトだよ！ 俺なんか毎日
日がパーリーだから、周りには『パーリーゲイツ安倍ちゃん』なんて言われちゃってるん
だよ！ イヤホイ！」

「俺がオーガナイズして、BBQパーティーパーリーやお花見パーリーを主催してるんだよ！ 毎回、
200名くらいは参加してるね」

「女の子なんか、うちの会社の名前を出すだけで、寄ってきちゃうから！」

「うちの会社は、出張も多いからね！ 各出張先で現地妻とかできちゃうわけよ！」

「社内も女子比率が比較的に多いから、社内不倫とかも多いよね」

単純にすごい！ この会社で働きたいと強く思ったんです。

入社後に安倍ちゃんは、単にお金を払ってパーリーに参加しただけの人だったとわかる
のですが、そのときは前日に大学の男友達と二人で朝までアイドル話を肴みかに飲んでいたの

で、頭が回っていなかったのです。

見抜けなかったのは不覚でした。前日に少しお酒を控えるべきでしたね。

いま思えば、安倍ちゃんは、後輩にカッコつけて言っただけだと思います。証^{しょうこ}拠^この
写真などを見せてもらえばよかったです。後悔、先に立たずですね。

しかし、その当時の私は、本気で大学を卒業すると、そんな夢の国のような社会人生活
が自分に待っていると思っていました。

- 鷹幸さんカッコいい！
- 鷹幸さんに彼女がいても、私と遊んでほしい
- 私もしかして……鷹幸のことが好きかも

と女の子がわんさわわんさと寄ってくると本気で思っていました。

お金がない学生時代より、サラリーマンになるだけで勝手にもっとももっともテる
と思っていたのです。

そのとき、鷹幸の中に潜む『鷹』は爪を磨いて、入社を待ちわびていました。

そんな大いなる期待を込めまくって、パーリーゲイツ安倍ちゃんがいる電子部品のメーカーに就職しました。

学生時代は関東でしたが、配属先は中国地方のある都市でした。そちらの地域の人が不愉快な思いをしないように、具体的な名称は伏せさせていただきます。悪しからず。

それなりの都会っ子だった私（人口20万人ほどの市が出身地です）は、配属先の田舎っぴりに驚愕きょうがくしました。

- 夜10時には、商店街の店は閉まる
- 夜の街には蝶ちようではなく、蛾がしかない
- 若者、少なすぎ

営業所に、若手は自分一人でした。バブル入社先輩が多く、一回り以上歳が離れてい

るので話もいまいち通じません。

飲み会は、上司の愚痴ぐちに付き合うか、説教をひたすらされるのみです。平均3時間にも及ぶ説教、そして上司の過去の武勇伝を聞かされます。

飲みの後には、スナックで蝶ではなく蛾を相手にしないといけません。カラオケでは上司のわかる歌を歌わないといけません。『A・R・A・S・O・I』なんて歌ったら、即刻『安全○帯』に変えられます。

おかげさまで、次に上司が何を言うのかがわかるくらい、内容はスラスラ話せるようになりました。厳しい修行に耐えて、お経を暗記で唱えるようになる修行僧と何ら変わりない状態です。

私は、会社に就職したのか、禅寺ぜんでらに修行に来たのか錯覚するような日々でした。

上司の顔色を見ながら仕事をし、理不尽に怒られる日々は、過酷かこくな修行としか思えませんでした。



厄介やっかいなのが、土日も上司に呼び出されることです。奴らは、単身赴任のケースが多く、土日どひが暇ひまなのです。

また奴らは、家族に嫌われているので話し相手が私しかいません。

上司が自宅にまで押しかけて、勝手に私のお酒を飲んだり、買物に付き合わされて荷物持ちをさせられたりと、絶対、ベジータがトランクスと一緒に精神と時の部屋で修行したときよりも辛かったと思います。

こんな状態の生活です。若い男女のリア充な飲み会もあるわけなく、コンパもまったくありませんでした。

女人禁制じょにんきんせいの僧じゃないのに、現実には厳しかったですね。

ちなみに『パーリーゲイツ安倍ちゃん』は、私が就職する少し前に転職済みでした。

完全に、

「話が違うぞ！ ゴラァ！」

って感じでした。私は安倍ちゃんに騙だまされたのです。

今思い返すと、安倍ちゃんは、学生時代もバドミントンサークルで後輩の女の子に声を掛けては断られ、また別の子に声を掛けて引き気味にされるとバツが悪くなりサークルから消えた男でした。

人の性格は、なかなか変わらないものですね。

その後、何度か上司は変わりましたが、状況は好転することはありませんでした。我慢するしかなかったのです。

仕事だけでなく、私生活も詰んでいく

その後、会社の同期から紹介されて付き合っていた彼女と結婚しました。25歳の冬でした。正直、結婚する気はなかったのですが、相手から迫られて仕方なく結婚したのです。

安倍ちゃんから聞いていたような生活は、3年間まったくありませんでした。

社内に女性はいましたが、地方営業所は、50代以上の大ベテラン陣です。社内での恋愛は諦めました。

確かに本社に行けば、若い女性も多いので不倫もあるんでしょうが、営業部署の私が本社に行くことはほとんど皆無です。安倍ちゃんも営業だったので、社内の女の子とウハウハでチョメチョメできるなんて、絶対に嘘を言っていましたね。

こんな状態です。もちろん社外での出会いなんて、期待できるわけがありません。基本的にコンパは行かない主義ですが、たまに後輩にどうしても来てほしいということで行っ

たりしました。しかしながら、好みの女性はなかなかいません。

年上の人が多く、中には「動物園か！ここは！」と思ったコンパもありました。

そんなときに、同期から「彼女の友人が彼氏を探しているから会わないか？」と誘われたのです。

同期の彼女が言うには、

「とってもいい子だよ！二人で遊んだことはないけど、高校からの同級生なんだ」

「顔はAKBのさっしー（指○）と大久保佳○子さんを足して2で割る感じかな？」

とのことでした。

おい、ちょっと待て！この『とってもいい子』というフレーズは大概の場合、『可愛くない』ケースが多いのです。

同期の彼女も大概なのに、その彼女が言うのかよ！という状態です。しかも、二人で遊んだことないとか、友人レベルでもないだろ！と怒っていました。さらに、顔のイメージ

つかないぞ！ 可愛いところがどこか少しでもあればと思いましたが、どうも心惹かれる顔ではなさそうです。

しかし、この後に、私の心が少なからずざわつくワードが現れます。

「しかも彼女、Fカップなんよ！」

「えっ！ エフってあの……」

私は不意ということもあって、思わずつぶやいてしまったのです。

このとき私の頭の中には『きらきら星』のメロディと共に、『ABCの歌』が流れてきました。しかも何度も流れます。

男性にとって、Fカップの魔力は恐ろしいですね。私のような、ある程度は理性がある人間でも、引っ掛かってしまうわけです。Fカップという言葉に惑わされないようにしてください。

FカップはあくまでもFカップであって、それ以上でもそれ以下でもありません。ただの言葉です。



その後、妻となる雅子まさことの出会いは、このような経緯でした。

付き合ってから3カ月ほどで、雅子の方から結婚の話がちらほら出てきました。かわそうと努力はしたのですが、彼女の熱意に負けて、交際半年で結婚することになりました。

同期や先輩に聞いても、そんな感じで結婚する人が多かったのも、自然の流れには逆らえないと言った感じではありません。ちょうど、子供ができたのも大きな理由です。

その頃には、学生時代に考えていた、毎日が楽しく、多くの女性にモテモテの人生像は消えかかっていた。消えかかっていたという表現を使ったのは、完全には消えてはいないということです。

ネットのニュースやフェイスブックを見ると、ZOZOTOWNの前〇さんがマガーズに上場し、与〇翼さんなどがネオヒルズ族と呼ばれたり、自分もチャンスさえあれば一発逆転もあるんだらうなと思っていたからです。彼らと自分との違いは、チャンスに恵まれているかいないかだけだと思っていました。

当時は、運が回ってきたら、自分も彼らのようになれると本気で思っていました。

そんな思いはつゆ知らず、子供が生まれると、それまで多少なりにも自分に優しかった雅子が豹変びょうへんしました。明らかに、雅子の性格が悪くなったのです。

出産前は、映画を見たり、食事に行ったり、と彼女のことはタイプではありませんでしたが、それなりの仲睦なかむつまじい夫婦生活だったのに……。

子供が生まれてからというもの、彼女の性格がどんどん悪くなり、手がつけられなくなりました。

「なんで靴下を床に置くの？ 頭おかしくない？」

「家の中を裸足で歩くと、あなたの足の油が床につくんですが？ 誰がお掃除そうじするんですようかね？」

「ちよっと、玄関から下水のような異臭いしゅうがするんだけど？ もしかして、その黒い靴じゃないの？」

今まで怒られなかった、使用済みの靴下を床に置くこともNG、なのに家の中を裸足で歩くのはNG、ビジネスシューズは「臭うから」とベランダに置かれるという恐ろしい変貌ぶりでした。

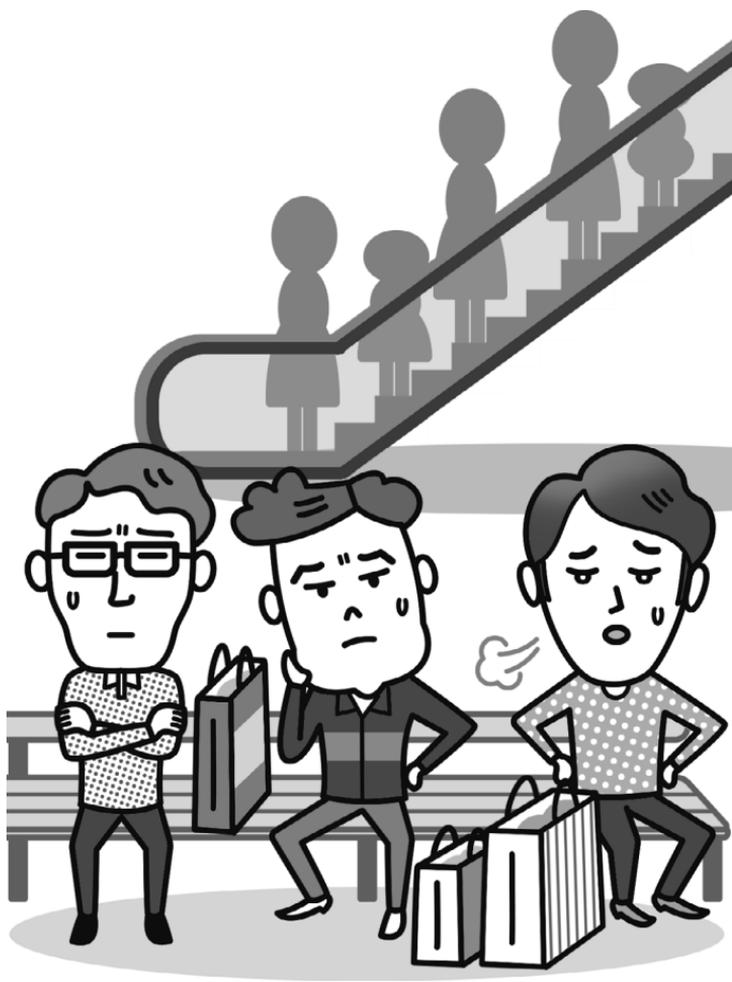
土日も家族の予定優先となり、仕事で我慢我慢の修行をして疲れているのに、休むことは許されませんでした。

「いつまで寝てるんだよ！ このグズ！」

「イオンの駐車場混むから、8時に出るからね！ 朝食はグズはなしね！」

独身時代、土日は、お昼すぎまで寝ることが楽しみだったのに、朝7時には起こされま
す。その後、大型のショッピングセンターに連れて行かれます。

ショッピングセンターに行くと、同じような境遇の男性に多く会います。大概、ショッ
ピングセンターのベンチで休んでいるか、書店で立ち読みしています。



私と同じで、会社でも家庭でも修行しているんでしょうね。

「お互い、大変ですね……」

と私が話しかけると、ほとんどのお父さんは疲れが限界なのか、

「はあ、そうです……」

で会話が止まります。話す気力すらないんですね。

家庭を持ったら、これが普通だと思う人も多いとは思いますが、こんな人生詰んだような廃人はいじんになる人生が私にも待っているとは……。

ただでさえ仕事で修行僧なのに、家庭でも我慢の日々は、辛いものがありました。

人生を将棋しょうぎで例えるなら、どんどん詰んでいくのです。しかも将棋と違うのは、終わりがすぐに来ることはなく、死ぬまで何十年と追いやられます。

子供が大きくなるにつれて、かさむ教育費、マイホームをせがむ妻、両親の介護、老後

の不安と、死ぬまで雪だるま式に課題は増えていきます。悟りさとを開きたいわけではないんですよ（涙）。ああ、学生時代に戻りたい！

「これも全部、安倍のせいだ……」

シヨップピングセンターの外のベンチに座って、安倍のピアスの穴を思い出しながら、私はつぶやきました。

鷹幸の中の『鷹』は、翼をもがれてしまいました。

修行しまくっていたら、悟りを開いた2014年

会社では、自分ばかりサボって、すぐ他人の責任にする能無しの上司たち。

何年間も産後クライシスが続く妻、雅子。

妻同様に、私のことを軽蔑する娘の春子。はるこ

2014年、私の心と体は、限界点を越えようとしていました。

春子が幼稚園という年齢もあって、転勤を嫌がる雅子。結婚前は、転勤してもついでい
くと言っていました。それははるか遠い過去のことです。

「転勤になったら単身赴任ふじんね！ 交通費もつたないから、帰ってくるのは月1くらい！
決定ね！」

転勤したら、一人で行くように命令されました。

転勤をしたら二重の生活費がかさみます。お小遣いは減らされ、せつかく転勤して一人暮らしなので自由な時間が取れるはずなのに、お金がまったくないため、遊ぶことはできません。

遊べないのであれば、今のお小遣いをやりくりすれば、数ヶ月に一度は遊べる今の生活の方がいいに決まっています。

飛ばされないように、本当は無視したいくらい無能な上司の言うことに我慢をして従いました。そうまでしないと、いつ転勤の辞令が発せられるかわかりません。

日々、ビクビクと怯える日々でした。

人に強制的に使われることなく、それなりに自由に仕事をすれば、自分の能力を発揮できるとは思うのですが、会社の中では自分の良さは何一つ発揮されることはありませんでした。

その当時は、家族のため、生活のため、自分を偽ってまで仕事に取り組むしかありませんでした。「上司が間違っているな」と思っても意見することなく、言われるがまま、命令されるがままでした。

「考えるのをやめたら、楽になるな」

会社の喫茶コーナーで週刊SP〇！を読みながら、決めました。

戦争に招集されて、無理やり戦場に駆り出されていた若者もこのような気持ちだったのでしょうか。今の世の中は戦場ではありませんが、心理的にはまったく同じなのではないでしょうか。

日本国では、憲法9条で平和主義を掲げていますが、会社は軍隊です。強制徴収の兵隊も家族という人質を取られたサラリーマンも自由はありません。いつの時代も同じですね。

考えるのをやめて、日常生活を送っていた2014年の私の誕生日、会社ではもちろんですが、家族の誰にも祝われることはありませんでした。

雅子や春子からサプライズプレゼントでもあるのかなと期待しつつ帰宅、そのまま何事もなく夕飯かと思いきや、忙しく動いている雅子から渡されたのは300円でした。

「ん？ なんのお金？」

と聞くと、

「今日は忙しいから、それで夕飯買ってきて食べてて」

という答えでした。

今までも夕飯がスーパーの弁当ということはあっても、さすがに現金を渡されるということはなかったのです。期待は絶望に変わりました。

毎日、毎日、我慢して我慢して、考えることをやめてまで働いてこの仕打ちは何たることかと、天を睨みました。

「神はいない」

「チャンスは自分には来ない」

この頃には、鷹幸の中の『鷹』はカゴの中の鳥と化していました。

カゴの中で待っていても意味がない！
自分が動いてカゴから出ないといけない
んだ！と決意したのです。

この出来事が私の人生を好転させる曲
がり角となりました。

この後に、本当の神に出会うことにな
ります。



人が行動できないことには理由がある！



「まだ僕は、本編では登場してないんだけども（笑）、なぜ行動したくても行動することができないのかを解説していきますね！」

動けないのには、理由があります！

- ・ 行動したいけど、ついダラけてしまう
- ・ 一步を踏み出したいけど、一步が出ない
- ・ やりたいんだけど、すぐに動けない



「ああ〜自分はいつも動けない……。ダメダメな人間なんだ。ダメな人間だから俺には無理だよ」



「鷹幸くん！ そんな落ち込まないの！ 動けないのは当たり前のことなんだよ！ 解説するね！」

現状維持の法則

（プリンストン大学の行動経済学者であるエルダー・シャフィール博士が提唱）

こんなことないですか？

① 転職を考えてはいるけども、今の会社と新しい会社のメリットを天秤てんびんにかけて考えているうちに疲れてしまつて、思考停止で転職できず。

② 痩せようと思つてジムに通つても、ジムの辛さに1カ月で辞めてしまい、結局、楽な自堕落じだらくな生活に戻る。



③資格を取るぞーと意気込んでテキストを買っても、ちょっと開いたら閉じてしまって、近くにある漫画を読み始める。

④好きでなくなった彼女に別れ話を言おうと思っても、なんか相手に悪い気になって、言えずにズルズル付き合う。





「絶対に自分は、行動なんてできないよ……」



「鷹幸くん、大丈夫！ 簡単に行動できる方法を教えるよ！」

簡単に行動できる方法

- ① 選択肢を減らす
- ② 選択の機会をなくす

選択肢を減らす



「FXや節約、株、転売、アフィリエイト、ブログ……。全部やれば、一気にお金が増えるぜ！」



「ほうほう」





「でもな……やること多すぎるから、明日また考えよう……」



「ほら、やらなくなった！ やろうとしてることが多すぎるんだよ！」



「節約が一番手っ取り早そうだ！」



「節約と言ってもいろいろあるから、具体例を出してみて！」



「はい！」

- スマホのプラン見直し
- 安いスーパーに買いに行く
- トイレの回数を減らして節水
- パンツを毎日から3日に1回洗濯



「ここからさらに1つだけ選択しよう！」

「はい！」



「これならすぐに行動できそうだね！」



・スマホのプラン見直し

「これだ！」



選択の機会をなくす



「お金を増やすためには、いろいろな人の意見を聞いたりしてから、セミナーに行こう！」



「セミナーに行ってもお金は増えないよ！むしろ、不要な知識や商品売りつけられるだけ！」



「でも、動くことが大切なら、動かないと！」





「ほらね（笑）。身になる行動とは、正しい考え・手法で実践することであって、無駄なセミナーや本を読むことではないからね！」



「えくん。騙だまされましたよ。FXの高額塾すすめられましたよ……。塾を売るためのトークだったので、正しくない無駄な知識でした……」



「言ったでしょ！ セミナーに行く時間あったら、節約のために自宅のネットの契約を見直したほうが賢かったね！」

● 第1章のまとめ ●

- ・行動できないのはできなくて当然!
- ・現状維持の法則があるから仕方がない!

動くためには、



- ① 選択肢を減らす
- ② 選択の機会を減らす

この2つだけ!